

わたしの 効果倍増! 教材活用術

学習カードカルタで学力向上

神奈川県三浦市立初声小学校教諭

鈴木夏来

なぜ、「歴史人物カードカルタ」が有効なのか

歴史学習には、まず「歴史人物カードカルタ」。これ以外ないと私は断言できます。カルタで歴史人物名と関連事項を、ある程度覚えさせてしまうのです。

もちろん一度に全部覚えられません。しかし、カルタで人物名や関連事項に触れておくだけで、その後の歴史学習がうんとラクになるのです。

カルタの知識が歴史への興味を呼ぶ

人は、興味があるから、知識を得ようとするわけではありません。その逆です。知識があるから、興味がわいてくるのです。これはいったい、どういうことなのでしょう。

例えば、歴史の授業の導入。それまでの私は、歴史学習の楽しさやロマンを伝え、子どもに興味や関心を喚起しようとしていました。「君たち一人ひとりには、2人の両親と4人の祖父母がいて、さらにたどっていくと…」

「聖徳太子はなんと、一度に12人の…」
「信長・秀吉・家康。3人に共通するのは…」
「もしあの時代に坂本竜馬がいなければ…」

私自身、一生懸命歴史を再勉強。どうしたら子どもたちが歴史好きになるかと、授業を工夫する日々が続きました。

しかし、こちらの熱意が必ずしも子どもに伝わるとは限りませんでした。

確かに一部の子、三国志や戦国時代のゲームに以前から親しんでいた男子は、歴史の話に胸を躍らせていました。

ところが大半の子、特に女子は、

「だから何なの？」
「所詮、歴史なんて過去の話。今の私たちには関係ないのよね」
という顔をしています。

歴史新聞を書かせても、図書室の本をただ書き写すだけ。討論をやらせても、話している内容に全くついていこうとせず、歴史が大好きな子とそうでない子の差は広がるばかりでした。

どうすれば、あらゆる子どもたちが歴史に興味をもつのだろうか？ そんな中で出会ったのが「歴史人物カードカルタ」だったのである。

最初は授業の隙間時間や、雨の日の休み時間にやらせていたのですが、遊んでいるうちに子どもたちは歴史人物の顔や人物名、読み札に使うスリーヒントを覚えるようになりました。

カルタで得た知識は、ただの断片的情報に過ぎません。ところがいざ歴史の授業の中で、その人物の名前が出てくると、「あ、知ってる！ カルタに出てきた」となるのです。

子どもはただ名前や顔しか知らないにもかかわらず、なぜか興味をもって授業に臨もうとしました。

そうです。知識そのものが興味や関心を喚起させる「引き金」になるのです。

人物名、肖像画、関連事項。

単純な知識をまず覚えさせるのに、カルタほど有用なツールはありません。



新学社発行、学習カードシリーズ「歴史人物カードカルタ」。朝の学習タイムや授業の導入などに活用できる。

日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？ このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

「歴史人物カードカルタ」を用いて、必要事項をざっと覚えさせる。それだけで、子どもの歴史学習の理解度がまったく違うものとなりました。誰しもが歴史に興味関心をもって授業に臨むようになったのです。

知識はさらなる知識を呼び、歴史学習への興味関心も、ますます強いものとなっていきます。



NHK「おはよう日本 まちかど情報室」で、2008年に計4回、学校で使う様子が紹介された。学校には、かなりの数の問い合わせが入った。

年代順によるワンパターン学習のすすめ

「歴史人物カードカルタ」には、二人組のカード対決や坊主めくりなど、様々な遊び方が用意されています。

しかし、私が最良の形態だと考えるのは、いたってシンプルで、次のやり方です。

①グループ（4〜6人程度）を作り、グループ分の「歴史人物カードカルタ」を用意す

る。

②グループの中に読み手を決める。

③「スリーヒント一覧」を、上から順に読み上げていく。

④ヒントに該当するカードを取る。

⑤カードを多く取った者が勝ち。

ここでもっとも大切なのが「③『スリーヒント一覧』を、上から順に読み上げていく」です。1枚目は卑弥呼、2枚目は聖徳太子、3枚目は小野妹子…と、子どもは読み上げるカードの順番を覚えるようになるからです。

「読み上げる順番を子どもが覚えてしまつたら、ゲームをする意味がなくなつてしまつてしまいませんか！」そう思うかもしれません。

しかし、それで構わないのです。

「歴史人物カードカルタ」は、70枚の人物カードが年代順に並んでいます。順番に覚えることで、その人物はどの時代の人物か、関連の深い人物は誰か、関連事項は何か、そういったことまで覚えていくことができるのです。

当初、読み手は私がやっていました。

子どもたちに飽きが来ないようにと、読み方を工夫しました。

スリーヒント以外に、いろいろなヒントを挙げて取らせてみたり、カードを読み札の代わりとして、シャッフルして読み上げたり。それはそれで楽しいのですが、毎回教師が読み上げるのはたいへんだと、子どもに任せたのです。

グループごとにやりなさい、と。

カードの余分はありませんから、子どもはスリーヒントの一覧表を読み上げるよりほかにありません。読み札をシャッフルすることもできません。子どもは上から順に、読み上げるよりほかなかったのです。

ところが、それを繰り返しやる中で、ものすごいことが起こってきました。読み上げる順番が一緒だから、それさえ覚えればゲームに勝てる、順番を覚えるようになったのです。

子どもたちは70枚の人物、およびスリーヒントの関連事項を順に暗唱できるようになりました。



カルタゲーム用のスリーヒント一覧。漢字には全て読みがながふってある。

1年生から「歴史人物カードカルタ」を

歴史の学習は6年生からですが、「歴史人物カードカルタ」は、1年生からでも十分に楽しむことが可能です。カードにはもちろん、「スリーヒント一覧」の漢字にも読みがながふってあるので、1グループに1セットのカードカルタを渡すだけで、子どもは喜んでカルタ遊びを始めます。

スリーヒントを自分たちで読み上げること
で、音読の練習にもなります。

「歴史人物カードカルタ」で知識を獲得し
た1年生は、その後も興味をもって歴史を学
ぼうとします。

歴史人物事典や偉人伝を読む子。

オリジナルの歴史カードを作って遊ぶ子。

調べたことを小さな用紙に書いて、どんど
んその数を増やしていく子。

歴史大好きな子が次々と誕生します。

保護者からも感謝されるでしょう。



1年生も夢中になる。写真は、手作りの人物カルタ。

「順番どおり」を「都道府県カードカルタ」
にも

「都道府県カードカルタ」にも、スリーヒ
ント一覧を用いた「ワンパターン学習」は応
用できます。

すなわち、北海道、青森、岩手…と順番に
沖繩までスリーヒントを読み上げていくやり
方です。繰り返してやっていると、「歴史人物
カードカルタ」と同様、子どもはその順番を
覚えていきます。

47都道府県には、「都道府県番号」がつい
ているのをご存じでしょうか。これは普遍的
な番号ですから、順に覚えさせていると何か
と便利かと思えます。私のクラスでは、47都
道府県テストをただの白い紙に書いて行って
います。自分で1から47まで番号をふり、そ
こに1北海道、2青森、3岩手…と書き込ん
でいくテストです。速い子はひらがなで2
分以内、漢字ならば3分前後で書き終わしま
す。丸付けも、暗唱で確認します。
一度番号順に覚えておくと、頭の中でシャ
ッフルすることも可能です。



新学社「都道府県カードカルタ」は、表・裏
の二部構成。歴史と同様に「スリーヒント一
覧」もついている。

例えば、14は？と問えば、

「神奈川県。鎌倉、箱根、みなとみらい」と
返ってきます。

本当のところ、都道府県名やスリーヒント



必要な知識は、カルタで覚えるのがいち
ばん！

を機械的に覚えることよりも、もっと大切な
ことはあるはずです。

しかし、最低限の知識がないことには、地
理の学習ははかどりません。

全くわからない地名が出てくると、知っ
ている地名が出てくるとでは、学習への興
味関心の度合いがまるで違います。ですから
私は「都道府県カードカルタ」を用いて、ま
ずは知識を獲得することが肝要だと考えるの
です。

「歴史人物カードカルタ」同様、「都道府県
カードカルタ」も1年生から楽しむことが可
能です。

クラスでカルタによる学習を取り入れ、学
力の向上を目指そうではありませんか。